

青森県の

SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS in AOMORI



県内企業の SDGs取組紹介

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



目次

はじめに

事例紹介

- CASE 1 トゥルーバファーム青森 株式会社**
SDGs達成に貢献する「アグリビジネス」を実現する
- CASE 2 株式会社 東京堂**
地域の力で子どもたちに音楽を
- CASE 3 北洋硝子 株式会社**
持続可能な伝統産業を優れた技術と女性の活躍で
- CASE 4 県南環境保全センター 株式会社**
廃棄物処理を新たなステージへ
- CASE 5 株式会社 津軽バイオマスエナジー**
地域でつくり、地域でつかう持続可能なエネルギー
- CASE 6 株式会社 フォルテ**
社会の課題をテクノロジーで解決
- CASE 7 もりやま園 株式会社**
SDGsでりんご生産を成長産業へ
- CASE 8 やまと印刷 株式会社**
自分が成長することへの喜びを感じられる、それが魅力ある地域
- CASE 9 株式会社 ジョイ・ワールド・パシフィック**
変革と挑戦で地域の食を次の世代へ
- CASE 10 丸喜 株式会社 齋藤組**
お客様が欲しいものを創り、新しい魅力を生み出す
- CASE 11 株式会社 青森資源**
できることから継続して取り組む
- CASE 12 大管工業 株式会社**
ホタテ残渣を環境に優しいエコ商品に
- CASE 13 株式会社 工藤**
地域の思い出をエネルギーに換える
- CASE 14 株式会社 リビエラ**
水の熱エネルギーで自然にも自分にも優しく
- CASE 15 株式会社 ランバーテック工業**
廃材を利用した青森県発のサステナブルな新素材

事例集作成にご協力いただいた各企業のSDGs

青森銀行・みちのく銀行



青森県のSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS in AOMORI

はじめに

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、2015年9月の国連サミットで採択され、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

「誰一人取り残さない」ことを基本コンセプトに、持続可能でより良い社会の実現を目指すもので、「貧困をなくそう」など17のゴールとより具体的な169のターゲットから構成されています。

SDGsは、多くの企業・団体等の取組や活動に密接に関わるものであることはもちろんのこと、県民一人ひとりが「自分事」として考え、行動することが大切です。

県においても、「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」(2019-2023年度)にSDGsの理念を踏まえた各種施策の展開を掲げ(第6章「計画の推進」)、各政策分野においてSDGsの実現に取り組むとともに、市町村や企業・団体等への情報発信や普及啓発など、SDGsに対する県民の理解促進を図っています。

本事例集では、県内において、環境・教育・経済・まちづくりなどの様々な分野でSDGsに積極的に取り組まれている企業・団体等を紹介しています。紹介している事例によりSDGsに対する理解が深まり、本県での取組の輪が広がっていくことを期待しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



トゥルーバファーム青森 株式会社

SDGs達成に貢献する
「アグリビジネス」を実現する

経緯・背景

当社は、地元の大手農業事業者とのお付き合いをきっかけに、りんごをはじめとした生産者の高齢化、耕作放棄地の増加、深刻化する担い手不足といった青森県が抱えている課題の解決に向けて、人口減少時代にあっても持続可能な「アグリビジネス」の新たなモデルづくりを目指しています。SDGsは、この事業を始めた当初から意識していて、専門家のアドバイスを取り入れながら、SDGsのゴールとそれらの達成に向けて企業としてやるべきことを結び付けています。



一つ一つ丁寧にシャインマスカットの手入れをしています

Our Action 取組・活動

- トゥルーバアグリ株式会社は、地方で農業へ参入する法人を設立し、地域産業の再生や雇用創出に取り組んでいる企業です。
- この農場では、農地の賃貸や技術指導など地元の大手農業事業者との関係を活かして、土壌管理・水やりへのICT・IoT導入や、ぶどうのレインカット栽培やハウス栽培、りんごの高密植栽培といった新たな栽培方法などの実証に取り組んでいます。
- これらによって、農業者が経営計画を中長期に描くことが可能となり、金融機関等からの資金調達を容易化することで、就農者の増加、法人化の進展、農業に関する新たな雇用を創出し、持続可能な「アグリビジネス」を実現させていきたいと考えています。

企業・団体情報

トゥルーバファーム青森 株式会社

弘前市十面沢轡125-66 TEL:本社03-3212-7100 (農場長070-4153-7724)

(本社トゥルーバアグリ株式会社 東京都千代田区大手町1-3-2経団連会館15階)

<https://truva-agri.co.jp/truvafarmaomori.html>



農場長 貞森 亨氏



りんごの高密植栽培などにも取り組む



岩木山の裾野に広がるファーム





株式会社 東京堂



地域の力で 子どもたちに音楽を

経緯・背景

2019年に、当社役員が「SDGsアウトサイドイン・カードゲーム」のファシリテーターの資格を取得したことをきっかけに、社内外でカードゲームを通じたSDGsの勉強会を実施してきました。勉強会のおかげで、社員が当社の事業のあり方や方向性を検討する際に、SDGsの考え方を意識するようになりました。

SDGsの考え方を取り入れたことで、2019年から始めた「下北Jr. ウインドオーケストラ（シモジュニ）」の取組においても、うまく地域の人たちと連携・協力することができていると感じています。



「下北Jr. ウインドオーケストラ」のみなさん

Our Action 取組・活動

- 「シモジュニ」立ち上げの発端は、むつ市内の小学校の部活動が原則廃止になり、吹奏楽をやりたい下北の子どもたちのために、部活動に代わる受け皿を地域に作るができないかと考えたことです。
- なるべく部活動に近い形で、かつ持続可能な仕組みとするため、当社が指定管理を行う下北文化会館での活動とし、各学校で所有していた楽器を無償で市から借り受けたり、楽器のリペア費用を寄附で賄ったり、教員OBに指導していただいたりなど、行政や地域の方々からたくさんのご協力をいただいています。
- 人口減少により、音楽に限らず同じような課題に直面している地域もあると思いますが、当社の取組を通じ、地域の力を合わせることで課題解決できるということが広く伝わればと期待しています。



常務執行役員 沼澤 英理 氏



練習風景



社屋外観

企業・団体情報

株式会社 東京堂

むつ市小川町1丁目6-1 TEL:0175-22-3241

<http://tokyodo-hp.com>



持続可能な伝統産業を 優れた技術と女性の活躍で

経緯・背景

SDGsに対して、地域の伝統産業としてどのように取り組むことができるのか以前から興味を持っていました。

当社は製造メーカーなので、環境に配慮した取組はもちろんのこと、そのほか、様々なゴールに挑戦していきたいと考えています。



女性の職人が多く活躍しています

Our Action 取組・活動

- 当社では近年、若い世代の職人も増えてきており、女性の職人も多く活躍しています。これまで、職人といえば男性のイメージが強かったですが、彼女たちが持っている豊かな感性と匠の技術・確かな技法を取り入れながら、これまで培ってきた技術を次の世代へしっかりとつなぎ、地域に根付いた産業として、地域を盛り上げていきたいと考えています。
- 近年、海洋ごみが世界的に問題となっています。当社は元々、漁業用の浮玉の製造メーカーとしてスタートしており、現在は、使わなくなった浮玉を原料としたガラス食器の製作など、環境に配慮した取組を進めています。また、青森県は美しい海岸が多く、それらを守っていく取組も行っていきたいと考えています。



代表取締役社長 壁屋 知則 氏



1,500度の灼熱の溶解炉。
真夏の作業場は40度を超える。



全国的に人気が高い津軽びいどろ

企業・団体情報

北洋硝子 株式会社

青森市富田4丁目29-13 TEL:017-782-5183

<https://tsugaruvidro.jp>





県南環境保全センター 株式会社



廃棄物処理を 新たなステージへ

経緯・背景

当社は、15年以上前から産業廃棄物の堆肥化に取り組んでいます。既存の廃棄物処理施設は、堆肥化に向かない野菜くずや油分を含んだ液体を受け入れることができませんでしたが、食品加工事業社等から相談を受けることが多かったこと、施設の受け入れ能力が不足していたこともあり、バイオガス発電を兼ねた新たな施設（バイオガスエネルギーとわだ）を建設することとなりました。

当社の従来の事業自体がSDGsでしたが、新しい施設の建設に当たっては、CO₂削減やエネルギーの供給など、よりSDGsを意識しました。



容器包装と食品を分別

Our Action 取組・活動

- バイオガスエネルギーとわだは、産業廃棄物と一般廃棄物の両方を受け入れられる県内初のメタン発酵施設です。破碎した廃棄物が発酵槽でバイオガス化されて、発生するメタンガスを燃料に電気と熱（温水）をつくりだし、施設内での利用や電力会社へ売電しています。さらには、メタン発酵が終わった消化液を脱水して肥料化しています。電気に、自然環境に、農業に貢献した取組となります。
- 廃棄物が持っているエネルギーを無駄なく利用するとともに、廃棄物を地域資源として有効活用することで、循環型社会の実現に引き続き貢献していきたいと考えています。



バイオ施設管理課長 今泉 慎吾 氏(左)
営業課長 赤坂 大輔 氏(右)



発電設備「コージェネレーションシステム」



発酵槽タンク

企業・団体情報

県南環境保全センター 株式会社

十和田市大字三本木字野崎40-370 TEL:0176-22-2061

<http://www.kkhozen.com>



株式会社 津軽バイオマスエナジー



地域でつくり、 地域でつかう持続可能なエネルギー

経緯・背景

当社がある平川市は、総面積の約75%が森林で、集落がそれぞれ所有する森林の管理をやってきました。しかし、近年は所有林を建築用材や薪に使わない時代となり、林野に放置された間伐材が雨で流れるなどの土木被害が発生していました。そこで、市内の誘致企業と市が研究会を立ち上げ、ちょうど国が再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT制度）をつくったこともあり、木質バイオマスによる発電事業を開始し2015年から売電を始めています。事業を進めていく過程で、日本全体の電気の8割が石油・石炭火力で発電されていることを知り、SDGsを意識するようになりました。



バイオチップを炉へ投入する様子

Our Action 取組・活動

- 木質バイオマスによる発電は、大気中のCO₂を増加させない「カーボンニュートラル」の特性を有するとされており、当社は24時間途切れることなく木質チップを燃焼させ発電しているため、ほぼ安定したエネルギーを作っています。
- ここで発電される電気の半分は地域で消費され、エネルギーの地産地消につながっています。また、発電に伴う排熱を利用し、秋から春まで隣接している農業温室に温水を供給して、ミニトマトの周年栽培を実現するなど、エネルギー及び農業の面で持続可能な取組となっています。
- その結果、地域に古くからあった林野技術が若い世代に伝承されるとともに、山林伐採から燃料材の運搬、木質チップ工場や発電所での作業など、一連の業務で約70人の雇用が生まれています。

企業・団体情報

株式会社 津軽バイオマスエナジー
平川市中佐渡下石田35-1 TEL:0172-57-4444
<http://www.tsugaru-be.jp>



代表取締役 奈良 進 氏



チップを燃焼した熱により発生した蒸気の圧力でタービンを回し発電する



平川市にある発電所



株式会社 フォルテ



社会の課題を テクノロジーで解決



経緯・背景

当社では、デジタル化が進む中、今後どのようなサービスが必要になるかを予測しながら商品を開発しています。その中で、企業が社会にける負荷をいかに減らしていくかという視点が、持続可能な商品へつながると考えているため、開発する商品については、長寿命化やリサイクル可能な素材を活用するようにしています。

また、当社は、「社会の課題をテクノロジーで解決し、より豊かな社会・新たな価値を創造する解決型企業」を理念に掲げ、社会の課題に対して自分たちの持っている技術力を当てはめて解決して、その仕組みが自走していくことを目指しています。



AI顔認証システム「MIDERA(ミデラ)」



取組・活動

- 当社では、厚さ0.2ミリの超薄型リチウム固体電池(蓄電池)を開発しました。従来のものと比較して、安全性と軽量化が図られた商品となります。あらゆる機器を通信でつなぐIoTの広がりにも寄与することが期待されていて、例えば、同電池を電源とした位置情報端末をドローンに活用すると、より正確な位置情報を把握することができます。さらに、例えば発展途上国において、蓄電池を活用した太陽光発電により、生活のためのエネルギーを蓄えることができるようになります。
- 今後もリサイクル可能な素材を使用した蓄電池が様々な用途で活用されることで、SDGsの取組を推進し、その取組を世界に向けて発信していきたいと考えています。



代表取締役 葛西 純氏



AI飛沫感染防止システム「SASINE(サンネ)」



社屋外観

企業・団体情報

株式会社 フォルテ

青森市古川3丁目22-3 八甲ビル3F TEL:017-757-8033

<https://www.forte-inc.jp>



SDGsで りんご生産を成長産業へ

経緯・背景

当社は、摘果りんごで作った「テキカカシードル」を製造しています。従来、捨てられてきたものを活かした取組であり、持続可能な取組です。食品ロス問題ジャーナリストの井出留美氏の取材を受け、著作にも登場したり、SDGsのウェブ会議にも登壇したこともあります。

SDGsという概念が出てきた時には、「当社ではとっくにやっている」という感じでした。これまでやってきたこと自体がSDGsであり、持続可能な取組であると思っています。



摘果されたりんご。これからシードルが作られる

Our Action 取組・活動

- りんご農家は全作業時間の約75%を枝、葉っぱ、実などを棄てる作業に使ってきました。そこで、棄てられるりんごの実(摘果)を活かした「テキカカシードル」をつくっています。
- 当社の売上の7割は加工品なので、年中商品を作って、年中販売することができます。これにより、自然災害や季節に左右されない、安定した雇用を生み出すことができます。葉とりの時期だけ、収穫の時期だけ来てくれば良いというのではなく、年中仕事があり、それを続けていくことで、通年雇用を実現しています。農業をやりたいくないという人が離れていく仕組みを変え、一般企業並みの労働生産性を実現し、地域の第2次、第3次産業を支えていきたいと考えています。



代表取締役 森山 聡彦 氏



広大な園地から岩木山を望む



シードルが作られている工場

企業・団体情報

もりやま園 株式会社

弘前市緑ヶ丘1丁目10-4 TEL:0172-78-3395
<https://moriyamaen.jp>



やまと印刷 株式会社



自分が成長することへの 喜びを感じられる、それが魅力ある地域

経緯・背景

当社は、今年からSDGsを経営計画に組み込み、会社の取組全てが持続可能なものでなければならないと考えています。2019年、公益社団法人弘前青年会議所の理事長をやっていたところに、SDGsの本を読んでいて、そこで、周りの理事たちに促していったのが最初です。私たちが住み暮らす持続可能な地域を達成するため、地域課題に対して、自分たちがどのようにして取り組んでいけるかを考え、SDGsを意識していました。



自社の入口に掲げられているゴール

Our Action 取組・活動

- 社内で毎月1回開催している「やまと大学」という場で、講師を社長自身が務め、SDGsの勉強会や、SDGsカードゲームを通じた社内へのSDGsの理解の浸透を進めていく予定です。SDGsへの理解はもちろんのこと、勉強会を通して、自分が成長することで喜びを得られる機会を創造し、そういった場が多ければ多いほど、魅力のある地域になるはずです。
- 森林認証制度FSC、印刷後の加工廃棄の適正化、カーボン・オフセットによるCO₂削減、廃棄物（インキ）・廃棄紙の削減、再生紙リサイクルの推進向上、環境配慮基準に適合したグリーンプリンティング認証制度への取組、刷り直し件数の削減など、SDGsを意識して、企業努力を続けていきます。



代表取締役社長 秋元 駿一 氏



女性も多く働いている職場



社屋外観

企業・団体情報

やまと印刷 株式会社

弘前市神田4丁目4-5 TEL:0172-34-4111
<https://yamatop.jp>





変革と挑戦で 地域の食を次の世代へ

経緯・背景

当社では、近赤外線を利用して食品のカロリーなどを測定する機器「カロリーアンサー」を開発・販売しています。SDGsを意識するようになったのはそれを利用している取引先の企業から「食品ロスが問題になっているが、どうにかできないか」と相談を受けたのがきっかけでした。実際に、捨てられている食材を「カロリーアンサー」で測定してみると、すごい量のカロリーが廃棄されていることに改めて気づかされました。



自社で開発するスマート農機を使っていちごを生産している

Our Action 取組・活動

- SDGsでは、食に関することに最も力を入れています。農業は当社がある平川市にとって重要な産業であり、人口減少・高齢化が進む中でも守っていかなければならないという思いから、自社で農業に挑戦しています。
- 「カロリーアンサー」による食品ロス削減のほか、機器に読み込ませる食品・農産物を粉碎して、農業肥料への転用も検討しています。
- また、社内に新たにアグリ部門を立ち上げ、開発したスマート農機の実証実験などを行いながら、社員が高齢になっても働くことができる環境を整えたり、地域に新たな観光農園を立ち上げる計画を立てたり、持続可能な地域づくりに貢献する取組を行っています。

企業・団体情報

株式会社 ジョイ・ワールド・パシフィック
平川市館山前田85-2 TEL:0172-44-8133
<https://www.j-world.co.jp>



代表取締役 木村 祝幸 氏



カロリーアンサー



社屋外観



丸喜 株式会社 齋藤組



お客様が欲しいものを 創り、新しい魅力を生み出す

経緯・背景

当社は、10年程前から再生可能エネルギーに取り組んでいます。SDGsが策定されたとき、当社の理念や取組がSDGsのゴールやターゲットに共通するところが多いと感じて、まずはバッジを付けてSDGsを意識することから始めました。最近では、小・中学校でSDGsに関する授業を行っているため、将来を担う子供たちに当社を選んでもらうためにも、SDGsに関連する取組を積極的に発信していきたいと思っています。実際、当社のSDGsに関連するホームページを見て、大学生からインターシップの問合せをいただきました。



倉庫屋根太陽光発電

Our Action 取組・活動

- 電気は自給自足する時代が変わり、当社では自家発電自家消費型の太陽光発電に取り組んでいます。これは、電気料金の削減や脱炭素に寄与するほか、災害時に自宅を安全な避難場所として使用できるなどのメリットがあります。
- また、住宅建設等において、森林再生のために「死材を資材に変えよう」という理念のもと、積極的に意匠性の高い節のある木材を活用し、間接的にも森林再生を意識しています。将来、設備の更新をしやすいう、床下に約1mの空間を設けることで建て替えなくても長く愛用できる住宅設計も取り入れています。
- 自分たちが売りたいものではなく、お客様が欲しいものを創り、新しい魅力を生み出すことがSDGsにつながっていると考えています。青森県全体でSDGsに取り組み、世界に注目される「モデル都市」になることが目標です。



総務営業部 課長 齋藤 太一 氏



展示場 ZERO のお風呂



社屋外観

企業・団体情報

丸喜 株式会社 齋藤組

青森市中央2丁目2-12 TEL:017-777-3329

<https://www.marukisaito.com>

株式会社 青森資源



できることから 継続して取り組む



経緯・背景

当社では2007年から、環境省のエコアクション21の認証を受け、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の促進や、事業活動から生じる二酸化炭素排出量の削減等に取り組んできました。

数年前、取引先の方の胸に着いていたSDGsのバッジが目にとまり、SDGsについて調べたところ、これまで当社で行ってきた取組や事業活動そのものが、SDGsの理念と合致することが分かりました。

一般的には3K(きつい・汚い・危険)と言われることも多い業界ですが、SDGsを意識することで、社員が仕事に対する誇りを持ち、仕事を通じ地域に貢献している事を実感できている、と考えています。



金属、廃車、廃タイヤの処理設備

Our Action 取組・活動

- 「限りある資源を大切に」。先代の時からの、当社のキャッチフレーズです。当社では、自動車中古部品の販売を通じ、廃棄物の減量に取り組んでいるほか、アルミ缶やスチール缶、金属部品・廃タイヤや木材等を回収し、原材料又は燃料資源として再び使用できるようにするための中間処理を行っています。
- 他にも、社員が能力を発揮し、健康で働くことができるよう、各種訓練の実施や資格取得促進、始業前の健康チェックや保健師による健康相談を実施しています。
- SDGsについては、できることから、そして継続して取り組むことが非常に重要だと考えています。事業活動を行う過程で企業として取り組むことはもちろん大切ですし、一個人として世界中の皆が取り組むことが大事なのではないかと思えます。また、エッセンシャルワーカーとして、これからもリサイクルを通じて地域社会に貢献していきます。

企業・団体情報

株式会社 青森資源

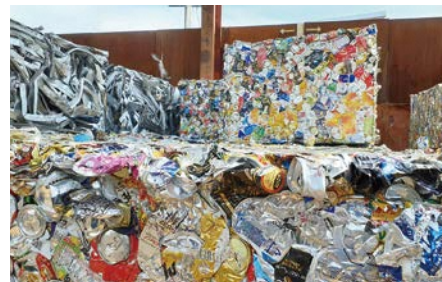
青森市大字駒込字桐ノ沢121-3 TEL:0120-8919-82
<http://www.aomorishigen.co.jp>



代表取締役 加賀谷 栄徳 氏



営業車にはキャッチフレーズがペイントされている



プレス処理された空き缶





大管工業 株式会社



ホタテ残渣を 環境に優しいエコ商品に

経緯・背景

当時の青森県におけるホタテの年間生産量は約8万トンで、加工などの過程で年間約4~5万トンの貝殻が発生していました。そのうちの約7割(約3.5トン)が、産業廃棄物としての処理に苦慮しており、現在でも環境保全と処理費用の面で地域の重大な課題となっています。地域の課題を少しでも解決するためにも、ホタテの貝殻を活用して何かできないかと考えたことが、商品開発に取り組むきっかけとなりました。



ホタテの貝殻の山

Our Action 取組・活動

- 当社では、路面標示用塗料にホタテの貝殻の粉末を配合した「シェルマーカー」を開発し、現在まで3年間で約11トンが使用されています。商品には、ホタテの貝殻を10%使用しているため、約1.1トンの貝殻が廃棄物にならずに活用されることとなります。ホタテの貝殻の活用は、不純物の清掃などの手間がかかることから、継続することは容易なことではないと思いますが、既存の商品がエコ商品へと生まれ変わり、さらに地域貢献につながっているため、持続可能な商品にしていきたいと考えています。今後は区画線のみならず、業種や地域を超えて様々な用途で商品が活用されることで、ホタテの貝殻の山を少しでも減らしていきたいと思っています。



取締役管理部長 對馬 洋二 氏



路面標示用塗料「シェルマーカー」



社屋外観

企業・団体情報

大管工業 株式会社

青森市大字諏訪沢字岩田50-4 TEL:017-726-2100

<http://www.daikan-a.com>





地域の思い出を エネルギーに換える

経緯・背景

当社は、廃タイヤを燃料とした独自のクリーン燃焼方式により、温水・蒸気を作り出し、再びエネルギーに変えることができるボイラー「ジェットクリーンKH-Eシリーズ」を開発・販売しています。元々は自動車販売業をやりつつレースもやっていました。そこで履きつづかれて山積みになったタイヤをレースで培ったパワーを上げた燃焼方式を取り入れることで、環境に配慮したエネルギーを生み出す技術を作りました。このように、先代の頃からずっとやってきたことが、実はSDGsの取組に合致していたのだと思っています。



ジェットクリーンボイラーの生産現場

Our Action 取組・活動

- タイヤを燃料としたボイラーの開発や販売を今後も続けていきます。加えて、例えば、通学・通勤、デートなど素敵な思い出として使われてきたのに、履きつづされるとゴミ同然に扱われているタイヤをボイラーで燃やすと、新たなエネルギーに生まれ変わる、タイヤはサステナブルなものであるということを広く伝えていきたいです。当社で燃やしているタイヤは八戸市近郊で回収しており、地域の資源を地域で消費できる持続可能なエネルギーです。
- タイヤを燃料としたボイラーを設置して電気をまかない、排熱を利用した足湯などを設置したキャンプサイトの整備を計画しています。SDGsに感度の高い地域の若い世代の人たちに向けて、タイヤが実現する持続可能な社会の可能性を伝えていきたいです。

企業・団体情報

株式会社 工藤

八戸市南郷大字中野字大久保18-20 TEL:0178-82-3529
<https://www.kudo-h.com>



常務取締役 工藤 博氏



自社で培った高い技術が活かされている



環境に配慮したエネルギーを生み出す技術を構築





13 気候変動に
具体的な対策を



株式会社 リビエラ



水の熱エネルギーで 自然にも自分にも優しく

経緯・背景

仕事関係者が着用していたSDGsのバッジを頂いたことから、興味を持って調べたところ、当社の事業そのものがSDGsであることを知りました。同時に、SDGsの「誰も置き去りにしない」という理念に共感し、当社でできることは何だろうと考えたのが、本格的にSDGsに取り組むようになったきっかけです。SDGsは、誰もが持っている思いやりの精神であって、弱者を救済することは、企業としての社会的な責任だと感じています。特別なことをしようと難しく考えなくても、普段やっていることがSDGsにつながっていると気付くことが、まずは大事だと思います。



冷暖房・融雪システム「リビエラエコシステム」

Our Action 取組・活動

- 地下水熱を利用した融雪・冷暖房等の開発と施工を行っています。通年15℃と安定した温度を持つ地下水による「水の熱エネルギー」を有効活用することで、例えば冷房については、夏の高い外気温を利用する空冷式のものより大幅にエネルギーを抑えることができ、CO₂削減につなげています。
- 当社が参画している協同組合青森総合卸センターに設置されたSDGs推進管理委員会においては、現在フードロス削減と困窮者を支援するフードバンク活動推進の検討をお願いします。
- 多くの人にSDGsを意識して貰うために、当社の看板やシャッターなどにSDGsのロゴを掲出しています。まずは視覚で興味を持って貰い、活動の輪が広がればと思います。

企業・団体情報

株式会社 リビエラ

青森市第二問屋町3丁目2-23 TEL:017-729-1781
http://www.aomori-riviera.co.jp



代表取締役 今喜代美氏



一般社団法人日本SDGs協会によるSDGs事業認定証



社屋外観





廃材を利用した 青森県発のサステナブルな新素材

経緯・背景

合板や突き板(薄くスライスした)木の製造過程で1か月あたり排出される廃材が8トンも出ます。この廃材を再利用できないかと考え、誕生した新素材が木製段ボール[e・wood+]です。「e・wood+」の“e”は、ecologyからきており、世界的な話題となっている海洋プラスチックをはじめ、それらの課題解決に資することができるもので、既に10年にわたって取組を続けています。



原木をかつら剥きできる国内で希少な技術。この過程で出る廃材がe・wood+の材料になる

Our Action 取組・活動

- 当社では、地元の広葉樹の原木をかつら剥きできる日本で数少ない技術を活かして単板を製造しており、その製造過程で排出される廃材を活用して「e・wood+」の製造を行っています。「e・wood+」は、原料が木であるため、水に強く、軽く、100%リサイクル可能な木製エコ素材です。
- 現在は、平川市ふるさとセンターの椅子などに使用されているとともに、大手ネット通販の「amazon」と提携した「組み立てキット製品」等もあります。そのほか、内装や商品展示棚、簡易トイレなど、様々なものに応用の可能性があるものです。
- 「e・wood+」を使うことによって、廃材が減り、新たな資源として生まれ変わる、サステナブルな取組となります。

企業・団体情報

株式会社 ランバーテック工業(今井産業グループ)

弘前市大字清水森字下川原2-53 TEL:0172-87-1441

<http://ltkougyou.jp>



ランバーテック工業 代表取締役 奥山 悟 氏(左)
今井産業 取締役会長 今井 公文 氏(右)



工場で使うエネルギーは自社でまかなっている



社屋外観





事例集作成にご協力いただいた 各企業のSDGs

未来からの、ありがとうのために。



青森銀行では、SDGsを推進するために様々な取組を行っています。例えば、YouTubeを活用した動画配信企画として、青森銀行および「青森りんこ」のYouTube公式チャンネルで動画を配信しています。この動画は、SDGsの世界的なゴール(目標)を青森県版にローカライズし、「青森県にとってのSDGsとは何か?」という視点で、身近にある地域の課題などを分かりやすく解説しています。SDGsの各ゴール(目標)の中でも特に青森県に関連性のあるテーマを複数掲げ、シリーズとして動画を配信していますので、ぜひご覧ください。



家庭の銀行



みちのく銀行グループは、企業理念に掲げる「お客さまと地域社会の幸福と発展」を実現すべく、SDGsの達成に向けた取組を推進するために、「みちのく銀行グループSDGs宣言」を策定いたしました。4つの取組方針に基づいて地域の社会的課題や環境問題の解決に積極的に取り組んでまいります。また、職員一人ひとりも日々の生活の中において、等身大でできる身近なアクションを考え、価値ある未来へ向けて活動しております。

今後もグループ一体となって、地域に寄り添い、地域社会の持続的な成長・発展に貢献してまいります。





青森県企画政策部企画調整課

青森市長島一丁目1-1

電話番号017-722-1111(代表)